

●会員レポート●

スウェーデン便り (3)

星野 泉 明治大学政治経済学部教授

5 ■新品の価値よりつかう価値

北欧のスウェーデンと極東の日本と……最も異なる点の一つあげるなら、ものをつかう価値を大事にしていることである。

現在、住んでいるところは、比較的まちの中心部に近く、バスだけでなくトラムの停留所も近くにあるため、車を購入する必要はないとも思ったが、まちを離れた場合、あるいは他の都市へ行く場合のこともあり、ぜいたくとは思いつつ、車を購入した。

安い中古車を買おうと思って出かけたカーディーラーであったが、まずはびっくりさせられたことがある。お店の内外に並べられた車フロントガラスのところに、1998年、1995年モデルなど比較的時間がたっている割には、走行距離は10,000マイル、26,000マイルなどと表示してある。あまり乗っていない車が多いようである。小型車の価格は10万クローナ位で、もう少し安いほうがと思いつつ、車探しは比較的簡単かと思いつつ、おかしきことに気がついた。見た目があまり新しそうではないのである。

また、この国は、アメリカと違い、日本と同様の単位を用いているものが

多い。温度は華氏°Fではなく摂氏°C、重さはポンドではなくキログラム。ガソリンもガロンではなくリットル。長さは、メートル、センチ、もっと長くなればキロメートル…のはずである。どうもおかしい。よくよくみると、mileではなくmilであった。略したのではない。スウェーデン語でミルは10キロメートル、ということは、この価格帯あたりではどれも走行距離10万キロを超えるものばかりではないか。この時、小さい中古でいいからボルボに一生に一度は乗ってみたいという甘い夢は消え去ったのである。

メカニックに強くないので、あまり古い車はと思うと、予算を大幅にオーバーする。今回の在外研究のため、日本で5年、3万キロ弱で惜しくも手放した車と同じ車が、1.5倍くらいの値段。売値と買値は違うので店の利益と消費税の差を考えてほぼ同じ値段と考えても、10万キロ走行ということになる。1,000CC クラスの日本車希望に切り替えたが、それでも予算オーバーとなった。とにかく、中古価格が落ちない。20年くらい乗った車でもそれなりに結構な値段がついている。しかも、これは車だけに限らない。

スウェーデンに研究のため出かけた先輩の先生方の多くから受けたアドバ



イスの一つが、「家探しが大変」ということであった。1年前から準備した人もいそうである。ヨーテボリ大学に決まったのが1ヶ月前であったため、無理な話である。前に、1ヶ月ほど間借りしたストックホルムの家の家主さんは、「買えば。帰るときに売れば上がる」とのこと。こちらの人は、若いうちからローンを組んで家を買う人もいという。外国人であり、一時滞在の身分には無理な話ではあるが、借りるところがなかったらと一瞬興味をもってしまった。

この点はなんとかなつてアパートを借りることはできたが、安いとはいえない。それでも、相場ということと高く借りてしまったということ



雪のヨーテボリ 外気温はマイナス5度から10度くらいであるが、パネルヒーターで常に22度から23度に保たれている。

はないようである。住宅探しが困難なことはこちらでもよくいわれている。セカンドレント、部屋の又貸しもでき、借りているアパートの住人同士で部屋の交換をしようとの張り紙も掲示板にあったりする。新聞によれば、住宅価格や賃貸価格もかなり上がっている。

現在住んでいるアパートは、築100年ほどではないかということである。近所の不動産屋さんや銀行の窓には、売り物件のアパートの部屋や戸建住宅の案内が掲示されているが、20世紀前半の物件も多く、いつできたか不明な物件もある。20年もすると価値が

ほとんどなくなるという日本の住宅とは大きな違いである。建設時期が原因でとくに安いということもない。これはヨーロッパに共通する傾向であろうか。かつて、在外研究でイギリスのバーミンガム大学に留学した友人の家探しに同行したことがあるが、その際も、不動産屋さんの言葉に「戦後の新しい物件」という表現があった。戦後とは第二次世界大戦後である。むろん、湾岸戦争でもベトナム戦争でもない。日本であれば、この時期の物件でも新しい物件とはいわれまいであろうが。

むろん、それなりに壊れたり故障し

たりはしている。アパートの正面玄関に向う中扉（共用廊下）は、ある時、ドアノブ（ハンドル）が抜けて穴が開いていた。外側に扉を開ける方式のエレベーターは、時々動かないことがある。下の階への水漏れもあった。すぐに業者が来ることもなく、修理の進行具合はまことにゆっくりのんびりであるが、その度になんとか修理されてきた。メンテナンスで住宅の価値も維持されているのである。手を入れて住宅の価値は高まり、人々はそれを評価する。

現地の人の話では、供給が少ない、

規制があって新しい開発現場が少ないとのこと。持ち家の住人が引越すため、売りに出すと大変多くの人が見に来るといふ。売り手市場といえるだろう。

IKEA（イケア、アメリカではアイケア）という、スウェーデンを代表するホームセンターがある。日本でも、この4月に、船橋のスキー場跡地にオープンするようである。店も駐車場もいつもものすごい混雑、組み立て式家具も多く売られているため、ワゴンに大きな買い物を載せ駐車場へ行く姿が印象的。VOLVOのV70が威力を発揮するところである。

出来合いでなく、日曜大工（日常大工か）、自分でできることは自分でする文化がここにはある。作ったり、直したりすることに関心が高い。家の内外にも手を入れることで、居住性や価値を維持することができるのである。車についても、冬タイヤとノーマルタイヤの交換、オイル交換を自分で行う人が多い。多くのガソリンスタンドには、整備工場はついていない。スタンドは、もちろん、ほとんどがセルフ（給油）であるし、お店がなくて、クレジットカードと現金の自動販売機のみ

給油スタンドもある。

税金や新しい商品の価格が高いため、供給量がそう多くないため、中古価格が落ちないということもできる。スーパーの入口の掲示板には、車売ります、税金なしと書いてあったりする。少し安く興味はあったが、メカに弱い者には大冒険である。

日本では、消費税増は大問題となるが、付加価値税（消費税）が25%であるから即大変な国とはならない。税金が高ければ、生活の見直しをしてそれなりに工夫をするのかもしれない。マニュアルの方が安いからオートマチック車はあまり走っていない。大事なことは、負担は大きくても本当に必要なものが得られているかどうかである。

日本には景気対策のための減税と言う言葉があるが、これは、経済活性化のため、無駄使いをさせようというもの。通常の減税では、低所得者のもととそれほど多くの税負担をしていないから、高額所得者ほどメリットがあるものである。必要なのはむしろ、増税による再分配、本当に必要な福祉的支出の増加ではないか。

ご存知であろうか。日本とスウェー

デンの共通点の一つ。一人当たりGDPがほぼ同じ、2003年の数値で34,000ドル弱。主要182か国中9位（スウェーデン）と10位（日本）である。日本は、デフレの中でもアメリカに次ぐ世界第二の経済規模であるが、人口が多い分、一人あたりでは少なくなる。ノルウェーが49,000ドルで2位、デンマーク4位、アイスランド7位、フィンランド13位で、北欧の国々はいずれも3万ドルを超えている。なお、1位は5万ドルのルクセンブルグである。

ものを壊してまた作ることで経済を維持してきた日本。新しいものが豊富に出て、選択肢も多いため、資産価値の下落幅も大きい。こうしたことにより、経済規模の大きさが水増しされて、生活の豊かさを正確に表していないのではないか。

最後に、愛煙家諸氏に。車も家もレストランもノースモーキングが普通。価値が落ちないといっても、たばこを吸う人のいた家や車は、価値が大幅に下落するようである。車の場合、ほとんどタダ同然となったこともあるという。価値の維持のために、禁煙は欠かせない。